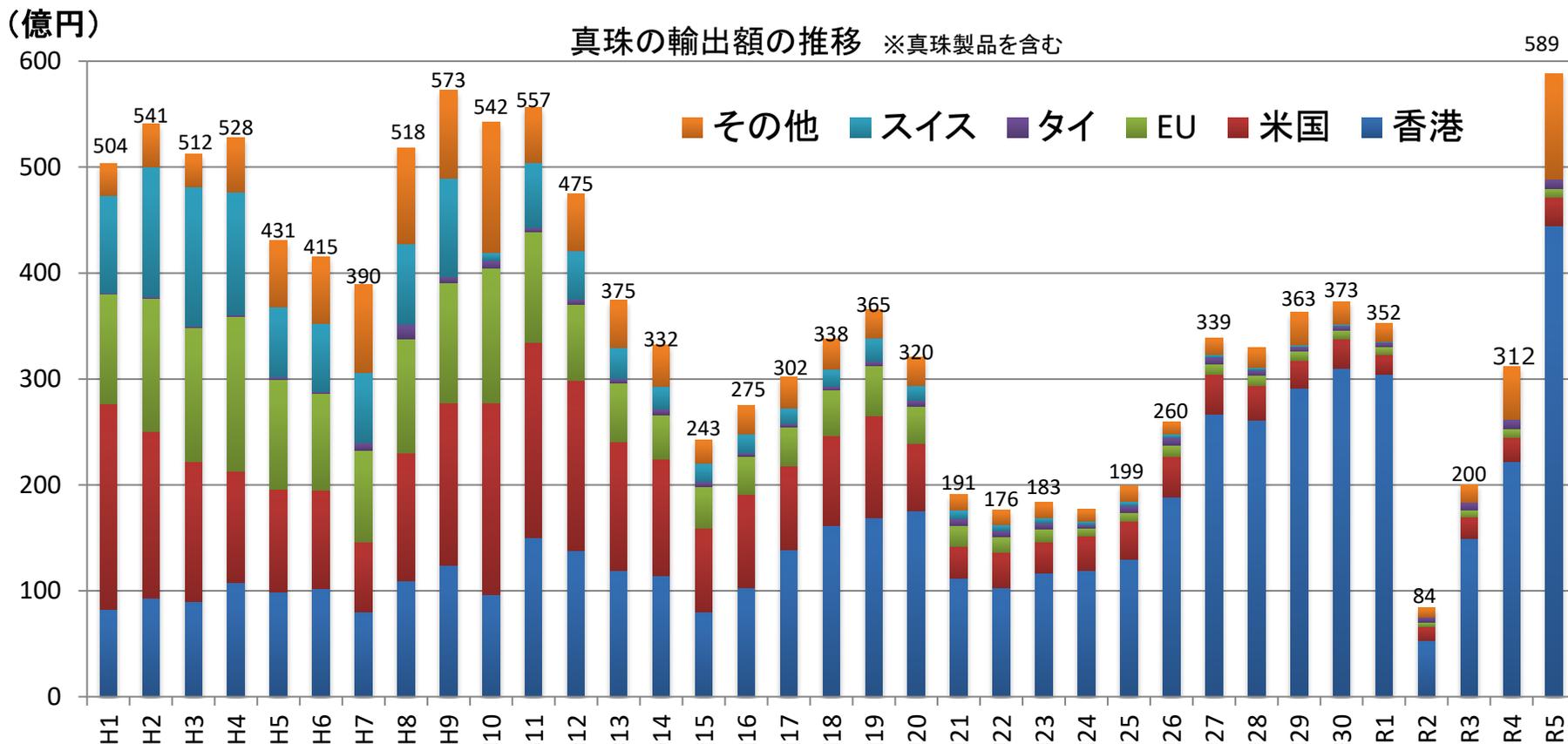


7 真珠の輸出状況

- 真珠は、我が国水産物の輸出額の上位を占める主要な輸出水産物。
- リーマンショック後の世界的な景気悪化の影響により輸出は低迷していたが、平成25年から上昇に転じ、平成27年以降の輸出金額(真珠製品を含む)は300億円台に回復。
- 香港の情勢不安や新型コロナウイルス感染症の影響により、R2年の輸出額は前年比8割弱減少したが、R3年は200億円、R5年には平成元年以降最高の589億円にまで増加。



出典:財務省貿易統計

養殖業の今後の成長目標と方針

(水産庁「養殖業成長産業化総合戦略」より)

| 戦略的 養殖品目 | 2030年 生産目標 | 2030年 輸出目標 | 対象マーケット | 生産方向 |
|-------------|---------------------------------|--------------------------|---|--|
| ブリ類 | 24万トン (2018年 14万トン) | 1,600億円 (2018年 160億円) | ○ 北米市場の拡大、アジア・EU市場、国内需要創出 等 | ○ 生産性向上による生産拡大、養殖管理の徹底やHACCP導入等 |
| マダイ | 11万トン (2018年 6万トン) | 600億円 (2018年 50億円) | ○ アジア市場の拡大、EU等の市場、国内需要創出 等 | ○ 生産性向上による生産拡大、養殖管理の徹底やHACCP導入等 |
| クロマグロ | 2万トン (2018年 2万トン) | — | ○ 国内市場の維持、アジア市場等の拡大 | ○ 日本でしか実現できない定時・定質・定量・ 定価格を追求する質の生産 |
| サケ・マス類 | 3～4万トン (2018年 2万トン) | — | ○ 国内の輸入養殖サーモン市場の獲得 | ○ 日本でしか実現できない定時・定質・定量・ 定価格を追求する質の生産 |
| 新魚種(ハタ類等) | 1～2万トン (2018年 0万トン) | — | ○ アジア等市場の創出、国内天然魚需要の代替 | ○ 天然魚市場と差別化した生産体制の構築 |
| ホタテガイ | 21万トン (2018年 17万トン) | 1,150億円 (2018年 477億円) | ○ 北米市場の拡大、アジアを経由しない北米・EU輸出の創出 ○ 国内消費用途拡大による新規国内市場の創出 | ○ 品質と食の安全を高いレベルで実現する生産 ○ 高付加価値品の中国を経由しない輸出の 拡大と生食以外の国内市場の掘り起こし |
| 真珠 | 200億円(2027年目標) (2018年 170億円) | 472億円 (2018年 373億円) | ○ 真珠の品質向上と需要の増進 ○ アジアや欧米等の海外市場の創出 | ○ 母貝の歩留まりや真珠の品質を高いレベルで実現する生産 ○ 海外市場の拡大と品質の高い真珠の安定供給による国内市場の掘り起こし |

※ 真珠の生産目標については、真珠の振興に関する法律第2条第1項の規定に基づく「真珠産業及び真珠に係る宝飾文化の振興に関する基本方針」に基づき、平成39年の真珠養殖業の生産額の目標が200億円と定められているため、当該生産額を目標とする。

<対策のポイント>

改正輸出促進法に基づき認定された農林水産物・食品輸出促進団体（いわゆる品目団体）等が行う業界全体の輸出力強化に向けた取組を支援します。

<事業目標>

農林水産物・食品の輸出額の拡大（2兆円〔2025年まで〕、5兆円〔2030年まで〕）

<事業の内容>

輸出重点品目（牛肉、コメ、りんご、ぶどう、茶、かんしょ、製材、ぶり、ホタテ貝等）について、改正輸出促進法に基づき認定された品目団体等*が、品目ごとに生産から販売までの業界関係者を取りまとめオールジャパンで行う、輸出力の強化に向けた取組を、以下のメニューにより支援します。

*認定された団体及び認定に向け取り組む団体

<支援メニュー>

- ① 輸出ターゲット国・地域の市場・規制調査
- ② 海外におけるジャパブランドの確立
- ③ 業界関係者共通の輸出に関する課題解決に向けた実証等
- ④ 海外における販路開拓活動
- ⑤ 輸出促進のための規格の策定等
- ⑥ 国内事業者の水平連携に向けた体制整備
- ⑦ 輸出手続きや商談等の専門家による支援
- ⑧ 新規輸出国開拓に向けた調査及び輸送試験
- ⑨ 任意のチェックオフ制度導入に向けた体制整備
- ⑩ JETROやJFOODOとの連携強化推進【5補正：4億円】
【6予算：8千万円】

<事業の流れ>



<事業イメージ>

- ①-例 ・マーケティングを行う現地エージェントを活用したコメ等市場調査
・食肉加工品に係る添加物使用、成分表示等の規則の調査
- ②-例 ・手数料の徴収による自主財源の確保も可能な、錦鯉の品質や価値を証明する電子生産証明書システムの開発
・日本産ホタテ貝製品の偽造品の流通防止・取り締まり対策
- ③-例 ・米国への構造材輸出のためのスギ・ヒノキ製材の性能の検証
・輸出先の飼料添加物の残留基準を満たすぶりの養殖実証
- ④-例 ・バイヤー向けセミナーの開催、品目専門見本市への出展等
・商談の多様化に向けた真珠のオンライン入札システムの開発
- ⑤-例 ・輸送資材や温度管理、洗浄方法等、相手国等ニーズへの対応（品質保持等）に必要な規格やマニュアル等の策定
・構成員による実装に必要な認証取得への支援
- ⑥-例 ・旬の青果物を活用したスイーツによる外食店での長期間フェアを可能とする産地リレー出荷のための出荷時期や数量等の調整
- ⑦-例 ・市場や規制、手続き等に精通する専門家による相談対応
- ⑧-例 ・切り花等の品質保持や輸送効率化等のための輸送実証
- ⑨-例 ・任意チェックオフ導入に向けた諸外国の事例調査や国内関係者を集めた検討会の開催、徴収体制の構築、徴収事務等
- ⑩-例 ・JETROやJFOODOとの連携による海外の外食店でのフェアの実施等（上記①～⑨の例のいずれにも対応）

現地でのPR活動



包材の規格化（イメージ）



洗浄方法の実証



バイヤー向けセミナー・商談会



リレー出荷によるスイーツ店での長期間フェア



【お問い合わせ先】輸出・国際局輸出企画課（03-6744-1779）

(参考) 認定農林水産物・食品輸出促進団体(認定品目団体)について

- 輸出品目ごとに、生産から販売に至る関係者が連携し、輸出の促進を図る法人を、国が輸出促進法に基づき「認定農林水産物・食品輸出促進団体」(認定品目団体)として認定する制度を令和4年10月より開始。
- 認定品目団体等が行う業界全体の輸出力強化に向けた取組を支援中。

| 認定日 | 認定団体名 | 対象とする輸出重点品目 |
|------------|--------------------------|--|
| 令和4年10月31日 | (一社) 全日本菓子輸出促進協議会 | 菓子 |
| | (一社) 日本木材輸出振興協会 | 製材、合板 |
| | (一社) 日本真珠振興会 | 真珠 |
| 令和4年12月5日 | 日本酒造組合中央会 | 清酒(日本酒)、本格焼酎・泡盛 |
| | (一社) 全日本コメ・コメ関連食品輸出促進協議会 | コメ・バックご飯・米粉及び米粉製品 |
| | (一社) 全国花き輸出拡大協議会 | 切り花 |
| | (一社) 日本青果物輸出促進協議会 | りんご、ぶどう、もも、かんきつ、かき・かき加工品、いちご、かんしょ・かんしょ加工品・その他の野菜 |
| 令和5年3月31日 | (公社) 日本茶業中央会 | 茶 |
| | (一社) 全日本錦鯉振興会 | 錦鯉 |
| 令和5年10月13日 | 全国醤油工業協同組合連合会 | 味噌・醤油のうち醤油 |
| | 全国味噌工業協同組合連合会 | 味噌・醤油のうち味噌 |
| 令和5年11月14日 | (一社) 日本はたて貝輸出振興協会 | ホタテ貝 |
| | (一社) 日本養殖魚類輸出推進協会 | ぶり、たい |
| | (一社) 日本畜産物輸出促進協会 | 牛肉、豚肉、鶏肉、鶏卵、牛乳乳製品 |
| 令和5年12月12日 | 全日本カレー工業協同組合 | ソース混合調味料のうちカレールウ及びカレー調製品 |